

# YULIANNA AVDEEVA PIANO RECITAL



忘れもしない、2023年2月。いつもと同じく凛とした物腰、華美に飾らない衣装でリサイタルの舞台に登場したユリアンナ・アヴデーエワ。やはりいつものように細部まで配慮の行き届いたストイックな演奏はそのままに、静かに深く、その音を奏でる時間の尊さを噛み締めるように弾くその姿、その音楽に、心を奪われた。言うまでもなく音楽は歌や会話と同等にもものを語れるが、アヴデーエワのその演奏は、まさに声なき声。音楽だからこそ、初めて表現できるものであった。

## ショパン・コンクール45年ぶりの女性優勝者 聴き手の心の芯に音を響かせる 稀有なピアニスト

未だかつて、こんな感情を表現したピアニストがいたであろうか。ここまで心の芯に響く音楽があったであろうか。

今回はファン垂涎のプログラムでの登場だ。ショパン・コンクールが行われる2025年にもっともショパンらしい作品として知られる24の前奏曲を過去のショパンの覇者アヴデーエワで聴けるだけでも贅沢だというのに、カップリングに没後50年を迎えたショスタコーヴィチの前奏曲とフーガが用意されているのだから、たまらない。初演時は辛辣な批判を不当に受けながら、その後バッハの平均律クラヴィーア以来最高の同名作品とまで称賛されるに至ったこの曲集をアヴデーエワで聴ける価値は、計り知れない。

前回のリサイタルで、これまでとはさらに別の次元の音楽家へと変わったことを聴かせてくれたアヴデーエワ。次はどんな音楽を奏でるのか、これほど興味をそそられるピアニストもまた稀有である。

© Maxim Abrossimov

### ユリアンナ・アヴデーエワ Yulianna Avdeeva

気高い情熱とヴィルトゥオジティを併せもつピアニスト、ユリアンナ・アヴデーエワは、2010年に第16回ショパン国際コンクールで第1位に輝き、コンクール史上、マルタ・アルゲリッチ以来45年ぶりの女性優勝者として国際的に名を挙げた。アヴデーエワの「深みと彩りに満ちた」演奏は、その「揺るぎないテクニックはもとより、ひたむきな情熱と音楽性によって常に抜きん出ている」(英紙『ザ・テレグラフ』)と評されている。また2022年には、米紙『ピッツバーグ・ポスト=ガゼット』上で「勇猛果敢な女性ピアニスト」と称された。

完売となった2023年のカーネギーホールへのデビュー・リサイタルのうち、アヴデーエワは2024年10月に同ホールの舞台に再び立ち、リストの名曲《短調ソナタ》を含むショパン&リスト・プログラムを披露。

2025年春には、ショスタコーヴィチの没後50年を記念し、ライブツィヒ

のゲヴァントハウスで《24の前奏曲とフーガ》の演奏を予定している。さらにベルリンのピエール・ブレーズ・ホール、バルセロナのカタルーニャ音楽堂(Palau de la Música)、マドリッド、オストラヴァ(チェコ)、ゼオン(スイス)でも《24の前奏曲とフーガ》を奏でる。

幅広いディスコグラフィを誇り、2023年リリースのアルバム『Resilience(復活の力)』にて、政治に翻弄され不穏な時代を生き抜いた作曲家(シュピルマン、ヴァインベルク、ショスタコーヴィチ、プロコフィエフ)にオマージュを捧げた。最新盤は、ショパンの晩年の作品を集めた『Voyage(ボヤージュ)』(2024)。2025年春にはショスタコーヴィチの《24の前奏曲とフーガ》を収めたアルバムを発表予定(以上3点はPENTATONEレーベルからのリリース)。